

	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 19 / 聖句等の総数 33250 <ハンナ>25個 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : ハンナ]
K	サムエル記上	1:2 エルカナには二人の妻があった。一人はハンナ、もう一人はペニナで、ペニナには子供があつたが、ハンナには子供がなかつた。	
K	サムエル記上	1:5 ハンナには一人分を与えた。彼はハンナを愛していたが、主はハンナの胎を閉ざしておられた。	
K	サムエル記上	1:6 彼女を敵と見るペニナは、主が子供をお授けにならないことでハンナを思い惱ませ、苦しめた。	
K	サムエル記上	1:7 毎年このようにして、ハンナが主の家に上るたびに、彼女はペニナのことで苦しんだ。今度もハンナは泣いて、何も食べようとしなかつた。	
K	サムエル記上	1:8 夫エルカナはハンナに言った。「ハンナよ、なぜ泣くのか。なぜ食べないのか。なぜふさぎ込んでいるのか。このわたしは、あなたにとって十人の息子にもまさるではないか。」	
K	サムエル記上	1:9 さて、シロでのいけにえの食事が終わり、ハンナは立ち上がつた。祭司エリは主の神殿の柱に近い席に着いていた。	
K	サムエル記上	1:10 ハンナは悩み嘆いて主に祈り、激しく泣いた。	
K	サムエル記上	1:12 ハンナが主の御前であまりにも長く祈つてゐるので、エリは彼女の口もとを注意して見た。	
K	サムエル記上	1:13 ハンナは心のうちで祈つていて、唇は動いていたが声は聞こえなかつた。エリは彼女が酒に酔つてゐるのだと思ひ、	
K	サムエル記上	1:15 ハンナは答えた。「いいえ、祭司様、違います。わたしは深い悩みを持つた女です。ぶどう酒も強い酒も飲んではおりません。ただ、主の御前に心からの願いを注ぎ出しておりました。」	
K	サムエル記上	1:18 ハンナは、「はしためが御厚意を得ますように」と言ってそこを離れた。それから食事をしたが、彼女の表情はもはや前のことではなかつた。	
K	サムエル記上	1:19 一家は朝早く起きて主の御前で礼拝し、ラマにある自分たちの家に帰つて行つた。エルカナは妻ハンナを知つた。主は彼女を御心に留められ、	
K	サムエル記上	1:20 ハンナは身ごもり、月が満ちて男の子を産んだ。主に願つて得た子供なので、その名をサムエル(その名は神)と名付けた。	
K	サムエル記上	1:22 ハンナは行こうとせず、夫に言った。「この子が乳離れしてから、一緒に主の御顔を仰ぎに行きます。そこにこの子をいつまでもとどまらせましょう。」	
K	サムエル記上	1:23 夫エルカナは妻に言った。「あなたがよいと思うようにしなさい。この子が乳離れするまで待つがよい。主がそのことを成就してくださるように。」ハンナはとどまつて子に乳を与え、乳離れするまで育てた。	
K	サムエル記上	1:24 乳離れした後、ハンナは三歳の雄牛一頭、麦粉を一エファ、ぶどう酒の革袋を一つ携え、その子を連れてシロの主の家に上つて行つた。この子は幼子にすぎなかつたが、	
K	サムエル記上	1:26 ハンナは言った。「祭司様、あなたは生きておられます。わたしは、ここであなたのそばに立つて主に祈つてゐたあの女です。」	
K	サムエル記上	2:1 ハンナは祈つて言った。「主にあってわたしの心は喜び／主にあってわたしは角を高く上げる。わたしは敵に対して口を大きく開き／御救いを喜び祝う。	
K	サムエル記上	2:21 主がハンナを顧みられたので、ハンナは身ごもり、息子を三人と娘を二人産んだ。少年サムエルは主のもとで成長した。	